

佐野市立 あそ野学園義務教育学校

義務教育学校 効果検証アンケート
(令和5年7月実施)

結 果 分 析

佐野市 教育委員会

学校適正配置課

あそ野学園義務教育学校アンケート調査

【児童生徒（５年生以上）対象】 （回収率約９２％）

《質問項目について》

大きく以下の３つ

- ①義務教育学校になって「良かったこと」
- ②義務教育学校になって「残念なこと・困っていること」
- ③あそ野学園の好きなところ・自慢できるところ

項目①②については、「たくさんある」「いくつかある」「あまりない」「まったくない」の中から自分の思いに近いものを選択させ、「ある」を選択した場合には、その内容について自由記述させる形式をとった。

《集計結果及び考察》

項目①で「良かったこと」があると回答した児童生徒の割合は、全体の 76%で、約 4 分の3の児童生徒が義務教育学校になったことを肯定的に受け止めていると捉えられる。逆に項目②「残念なこと・困っていること」があると回答した児童生徒の割合は、全体の 22%、約5分の1の児童生徒が何らかの不満を抱えていることがうかがわれる。これらの集計結果から、児童生徒の反応は、義務教育学校への不満も存在するが、肯定・否定半々ではなく、ほぼ好意的に受け止めている児童生徒が多いと捉えることができる。

それぞれの内容を問う自由記述では、「良かったこと」については、「前期課程と後期課程が仲良く交流できるメリット」に触れている記述がほとんどで、前期課程からは「後期課程生徒と一緒に活動できる心強さ」、後期課程からは「前期課程児童と触れ合う中で得られる癒し等」を好意的に受け止めている内容が多く見られた。また、「1～9年生全体で行う活動」への好意的な感想も多かった。

さらに、「前期課程段階から部活動の様子を知ることができる」「後期課程生徒に様々なシーンで支えてもらえる」等、中1ギャップ解消につながっていることが感じとれる意見も見られた。

一方「残念なこと・困っていること」の内容については、「人数の多さから校庭等の利用制限が加わることへの不満」、「校舎内階段・トイレ等が混み合うことへの不満」、「行事を前期後期合同で行うことによる内容制限等への不満」、「小規模校で行っていた活動が無くなったことへの不満」等が主なものだった。

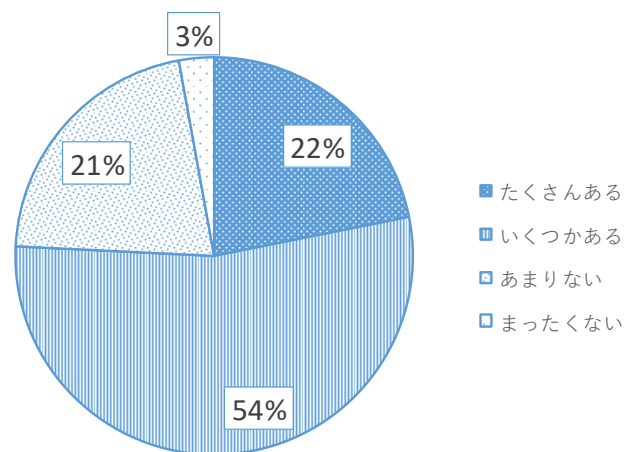
項目③「好きなところ・自慢できるところ」の回答のうち、半数以上が「1～9年生が交流できる学校であること」等、義務教育学校のメリットに直結した内容となっていた。また、「新しく、恵まれた施設設備」に触れている内容も多かった。

義務教育学校に関する児童生徒アンケート集計表

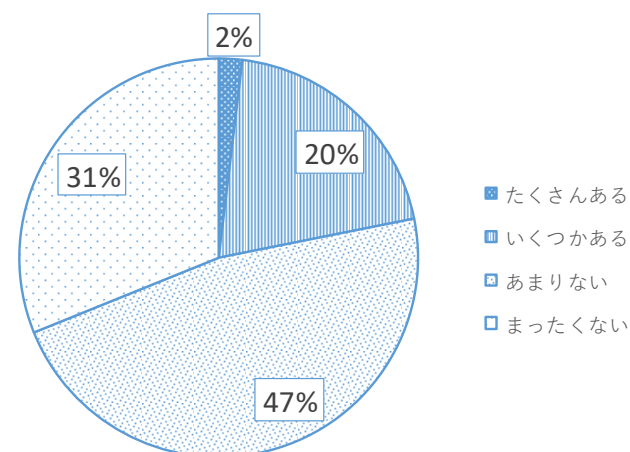
児童生徒		質 問	
学 年	回 答	① た 良 こ っ と	② こ 残 と 念 な
5	たくさんある	26	0
	いくつかある	48	12
	あまりない	19	40
	まったくない	4	45
	合 計	97	97
	肯定割合	76%	12%
6	たくさんある	16	5
	いくつかある	48	18
	あまりない	28	44
	まったくない	2	27
	合 計	94	94
	肯定割合	68%	24%
7	たくさんある	20	2
	いくつかある	48	19
	あまりない	17	44
	まったくない	2	22
	合 計	87	87
	肯定割合	78%	24%
8	たくさんある	15	0
	いくつかある	49	21
	あまりない	16	42
	まったくない	2	19
	合 計	82	82
	肯定割合	78%	26%
9	たくさんある	15	1
	いくつかある	34	14
	あまりない	10	28
	まったくない	2	18
	合 計	61	61
	肯定割合	80%	25%
合 計	たくさんある	92	8
	いくつかある	227	84
	あまりない	90	198
	まったくない	12	131
	合 計	421	421
肯定評価割合		76%	22%

義務教育学校になったことについての思い (5年生以上の児童生徒)

① 義務教育学校になって良かったこと



② 義務教育学校になって残念なこと



※「肯定割合」：それぞれの質問に対して、「たくさんある」「いくつかある」と回答された数が占める割合

あそ野学園義務教育学校アンケート調査【全保護者対象】

(回収率約98%)

《質問項目について》

下表各項目について、義務教育学校となったことによるメリットが確認できたか、「とてもそう感じる」「どちらかと言うとそう感じる」「どちらかと言うとそう感じない」「全くそう感じない」「判断できない」の5つの中から選択回答

(義務教育学校によるメリット調査項目)

《教職員用》	《保護者用》
(1) 児童生徒について	
①学校全体の活気	
②学年上下縦のつながり	
③同学年間横のつながり	
④思いやりの心育成	
⑤中1ギャップ解消	
⑥不登校児童生徒の変容	
⑦問題行動の抑制・解消	
⑧多様な考え方との出会い	
⑨学力の向上	
⑩体力の向上	
(2) 職員体制等について	
①小中教員による相互理解	①学校への相談のしやすさ
②一部教科担任制による効果	②乗り入れ指導による効果
③乗り入れ指導による効果	③教職員の人数による安心感
④組織的な勤務体制	
⑤児童生徒に関する情報共有	
(3) その他	
①充実した施設設備環境	①充実した施設設備環境
②CS による地域からの支援の充実	②学校・地域・保護者の連携
※CS：コミュニティースクール	③PTA 活動の負担軽減

この他、上記項目外でメリットとして感じていることについて、また、義務教育学校によるデメリットと感じていることについて、自由記述形式での回答を求めた。

《集計結果及び考察》

義務教育学校によるメリットとして、16の調査項目のうち肯定的回答が7割を超えていたのは7項目であったが、「判断できない」という回答を除いて集計すると、その数は11項目に増え、そのうち以下の8項目については肯定的回答が85%を超えていた。

- (1) ①「学校全体の活気」 91%
 ②「学年上下縦のつながり」 86%
 ③「同学年横のつながり」 89%

- ④「思いやりの心育成」 88%
- ⑤「中1ギャップ解消」 89%
- ⑧「多様な考え方との出会い」 88%
- (2) ②「後期課程教員の前期課程への乗り入れ指導による効果」 87%
- ③「教職員の人数による安心感」 84%
- (3) ①「充実した施設設備環境」 89%

これらに対し肯定的回答の割合が低かった項目は、(1) ⑥「不登校児童生徒の変容」⑦「問題行動の抑制・解消」⑨「学力の向上」⑩「体力の向上」(3) ③「PTA 活動の負担軽減」であった。

以上の結果から、かなりの割合の保護者が、小中一体となったことによるメリットを感じていることが確認できた。また、佐野市が義務教育学校開校に踏み切った大きな要因に複式学級の解消があるが、児童生徒数、教職員数が増えたことによるメリットも多くの保護者が認めている。

一方で「不登校」「問題行動」「学力」「体力」といった部分については、義務教育学校による特別な効果は認められていないという保護者の評価が感じとれる調査結果となった。しかし、これらの項目は、保護者個人が判断するためには十分な情報を得にくい項目であったとも考えられる。

PTA 会員数が増えたことによる保護者一人一人の負担減については、予想より低い評価となったが、「本部役員等組織編成の際に人数の少ない町内ほど負担が増えてしまうことによる不公平感」「PTA 会費の額に対しての負担感」等が影響していることが、自由記述の内容から推察できる。

メリットに関する自由記述では、調査項目に無かった内容として「小中が1校になったことで連絡や行事等に関わる保護者の負担が減った」「体操着を買い換える必要が無くなった」「バス通学により登下校時の不安が無くなった」等があげられた。「後期課程生徒が低学年児童に優しく接する姿に感激した」という内容の記述も多く見られた。

デメリットに関する自由記述については、前期後期一斉実施に変更となった運動会に対する不満がかなりの割合を占めたが、これについては実施の仕方や内容に対する意見であり、今回調査している義務教育学校に関するデメリットに直接つながるものではない。義務教育学校になったことによるデメリットに関する意見としては、「バス通学による時間的制約や体力低下等の課題」、「遊具の不足やプール利用時間の制約、駐車場への不満等、施設設備拡充に関わる課題」等が見られた。また、大規模校になったことで、友達、保護者、教員についての情報が確認しにくくなり、地域とのつながりも含め「人間関係の希薄化」を懸念する意見、「前期課程・後期課程それぞれの違いにふさわしい指導や行事」を求める意見も少数だが見られた。

義務教育学校によるメリット 保護者アンケート集計表

質問項目 回答	(1) 児童生徒について										(2) 職員体制について			(3) その他		
	① 活学 気校 全 体 の	② つ学 な年 が縦 り上 下	③ 同学 学年 横 間	④ 思 い や り	⑤ 解 消 中 ー ギ ャ ッ プ	⑥ 改 善 不 登 校	⑦ 解 消 問 題 行 動	⑧ 考 多 え 様 方 な	⑨ 学 力 向 上	⑩ 体 力 向 上	① し 相 談 や す さ	② 指 導 乗 り 入 れ	③ で 多 く の 職 員	① 環 境 施 設	② 連 携 C S に よ る	③ 負 担 P T A 軽 減
A回答++	150	138	92	97	130	46	29	92	32	35	70	85	101	139	51	60
B回答+	310	278	337	313	200	195	159	315	191	228	246	252	289	293	242	200
C回答-	32	52	43	44	29	77	95	43	123	119	68	36	50	40	98	91
D回答--	14	15	11	13	11	31	45	11	41	39	32	14	26	16	27	57
E回答?	48	71	71	87	184	205	226	93	167	133	138	167	88	66	136	146
A～E合計	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554
プラス評価 割合(含E)	83%	75%	77%	74%	60%	44%	34%	73%	40%	47%	57%	61%	70%	78%	53%	47%
A～D合計	506	483	483	467	370	349	328	461	387	421	416	387	466	488	418	408
プラス評価 割合(除E)	91%	86%	89%	88%	89%	69%	57%	88%	58%	62%	76%	87%	84%	89%	70%	64%

E「判断できない」を
抜いた集計

(各質問項目において「義務教育学校によるメリットが感じられるか」について)

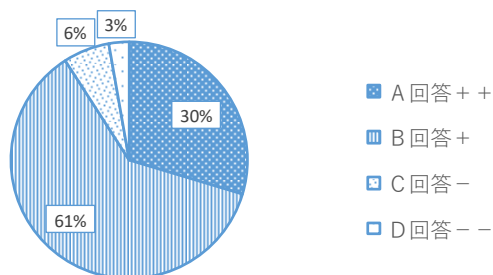
A回答++	: 「とてもそう思う」	}	プラス評価
B回答+	: 「どちらかと言うとそう思う」		
C回答-	: 「どちらかと言うとそう思わない」	}	マイナス評価
D回答--	: 「全くそう思わない」		
E回答?	: 「判断できない」		

※「プラス評価割合」: A回答・B回答を合わせた数が回答数に占める割合

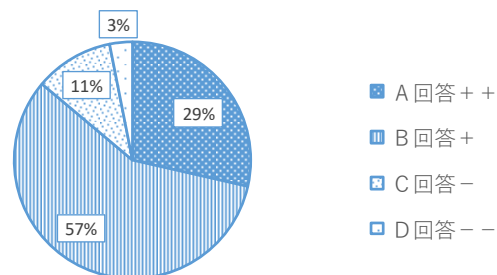
アンケート集計【全保護者対象】

義務教育学校によるメリット (1) 児童生徒について (E回答除く)

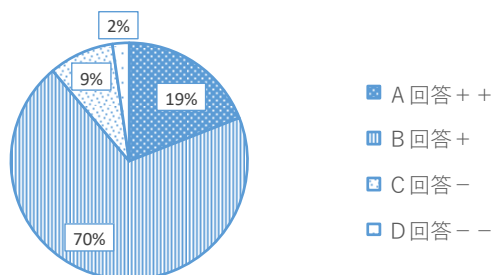
① 学校全体の活気



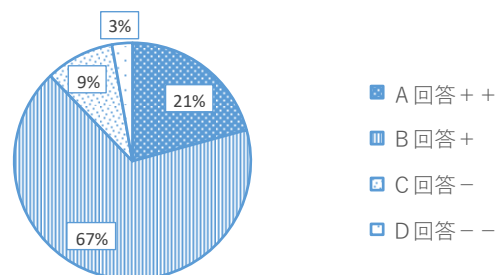
② 学年上下 縦のつながり



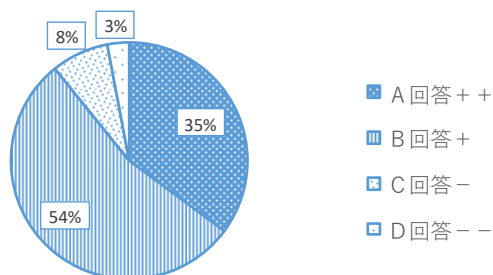
③ 同学年間 横のつながり



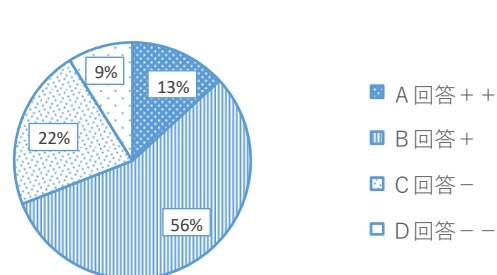
④ 思いやりの心



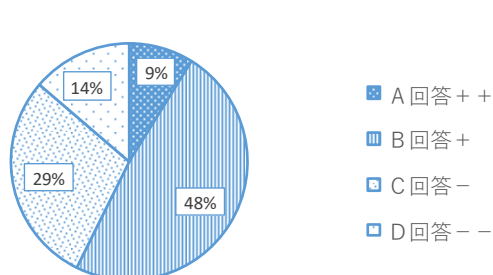
⑤ 中1ギャップの解消



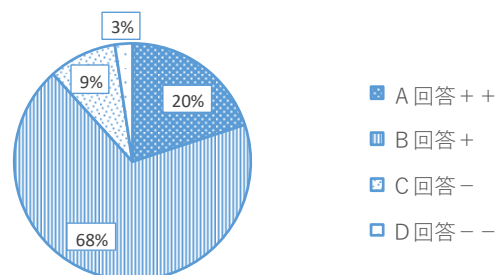
⑥ 不登校児童生徒の変容



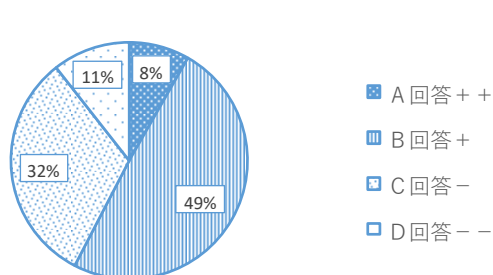
⑦ 問題行動の抑制・解消



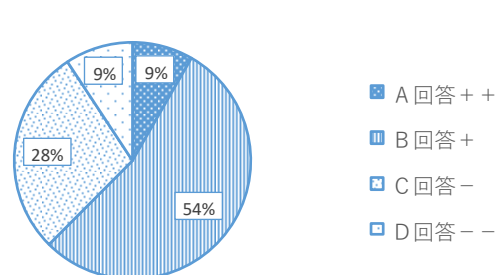
⑧ 多様な考え方との出会い



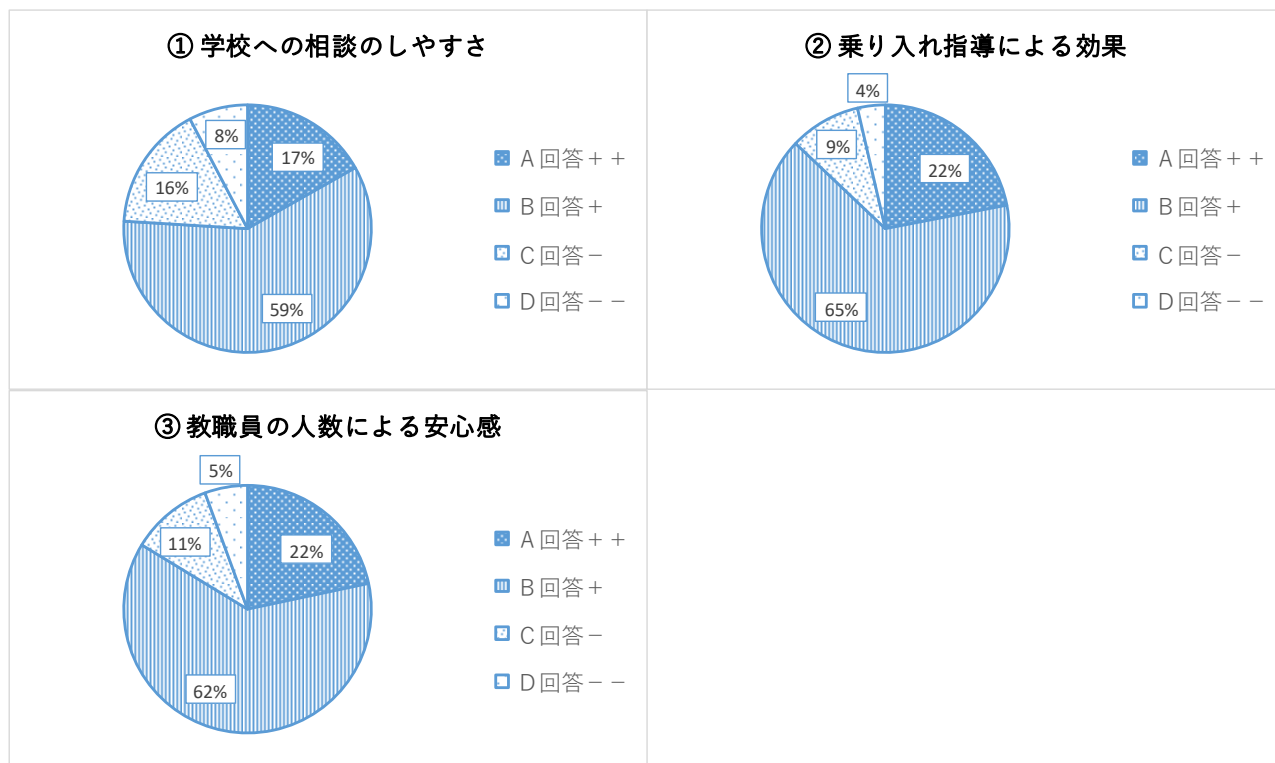
⑨ 学力の向上



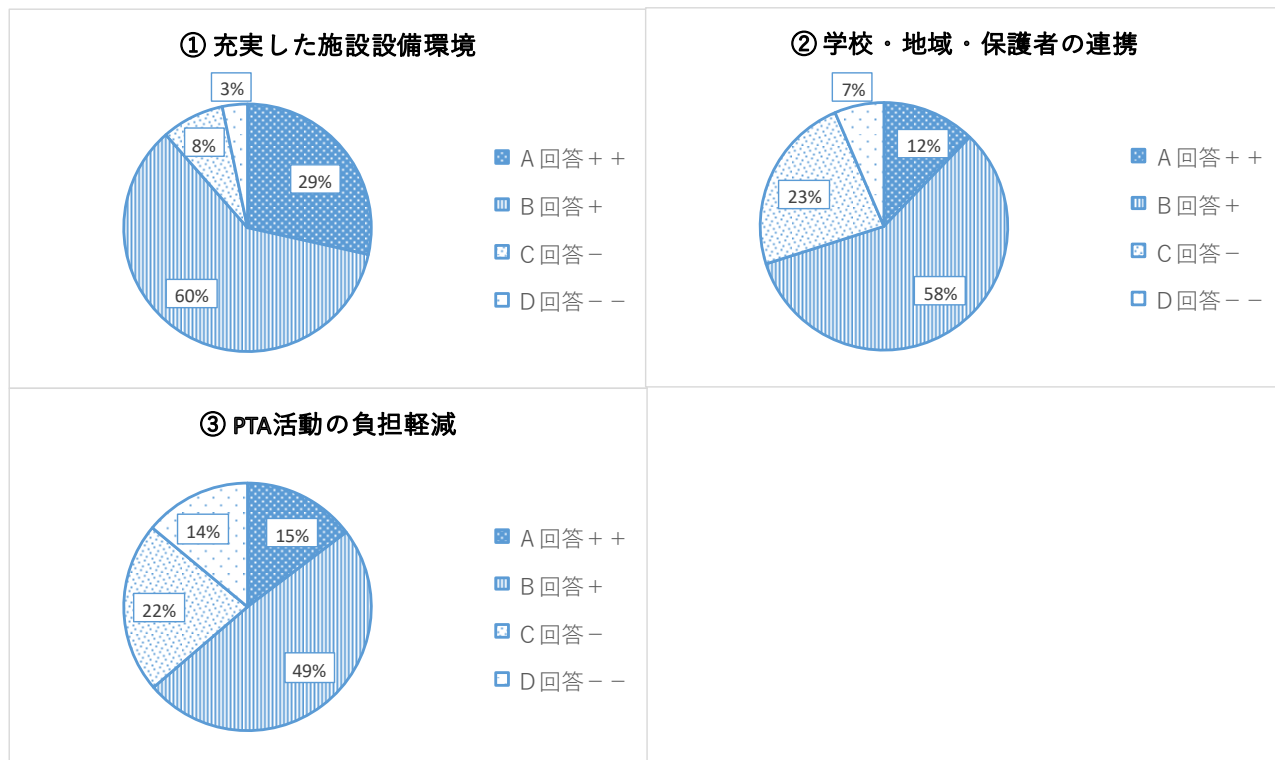
⑩ 体力の向上



義務教育学校によるメリット (2) 職員体制について (E回答除く)



義務教育学校によるメリット (3) その他 (E回答除く)



あそ野学園義務教育学校アンケート調査【教職員対象】

(回答者数 60名)

《質問項目について》

下表各項目について、義務教育学校となったことによるメリットが確認できたか、「とてもそう感じる」「どちらかと言うとそう感じる」「どちらかと言うとそう感じない」「全くそう感じない」「判断できない」の5つの中から選択回答

(義務教育学校によるメリット調査項目)

《教職員用》	《保護者用》
(1) 児童生徒について	
①学校全体の活気	
②学年上下縦のつながり	
③同学年間横のつながり	
④思いやりの心育成	
⑤中1ギャップ解消	
⑥不登校児童生徒の変容	
⑦問題行動の抑制・解消	
⑧多様な考え方との出会い	
⑨学力の向上	
⑩体力の向上	
(2) 職員体制等について	
①小中教員による相互理解	①学校への相談のしやすさ
②一部教科担任制による効果	②乗り入れ指導による効果
③乗り入れ指導による効果	③教職員の人数による安心感
④組織的な勤務体制	
⑤児童生徒に関する情報共有	
(3) その他	
①充実した施設設備環境	①充実した施設設備環境
②CS による地域からの支援の充実	②学校・地域・保護者の連携
※CS：コミュニティースクール	③PTA 活動の負担軽減

この他、上記項目外でメリットとして感じていることについて、また、義務教育学校によるデメリットと感じていることについて、自由記述形式での回答を求めた。

《集計結果及び考察》

義務教育学校によるメリットとして17の調査項目のうち肯定的回答が7割を超えていたのは9項目であったが、職種によって捉えにくい内容項目もあるため「判断できない」という回答を除いて集計したところ、以下の11項目で肯定的回答が85%を超えていた。

- (1) ①「学校全体の活気」 87%
 ②「学年上下縦のつながり」 93%
 ③「同学年横のつながり」 88%
 ④「思いやりの心育成」 89%
 ⑤「中1ギャップ解消」 90%

- ⑧「多様な考え方との出会い」 85%
- (2) ①「小中教員による相互理解」 91%
- ②「一部教科担任制による効果」 89%
- ③「後期課程教員による前期課程への乗り入れ指導による効果」 89%
- ⑤「児童生徒に関する情報共有」 93%
- (3) ②「コミュニティースクールによる地域からの支援の充実」 84%

これらに対し肯定的回答の割合が低かった項目は、(1) ⑥「不登校児童生徒の変容」⑦「問題行動の抑制・解消」⑨「学力の向上」⑩「体力の向上」であった。

「(1) 児童生徒について」の10項目への評価傾向は、教職員対象アンケート、保護者対象アンケート両方で共通した結果となった。従って保護者アンケート同様の考察ができる。つまり、今回の調査で、あそ野学園に勤務する教職員の大半が、義務教育学校としての多くのメリットを感じていることが確認できた。特に「学年上下のつながり」「中1ギャップの解消」「小中教員による相互理解」「児童生徒に関する情報共有」については肯定的回答の割合が9割を超えており、これらはいずれも義務教育学校の特性と直結する項目と言える。

一方で「不登校」「問題行動」「学力」「体力」といった部分については、義務教育学校による特別な効果を認めている教職員が少ないという結果も保護者アンケートの結果と一致している。(3) ①「充実した施設設備環境」に関する肯定的回答の割合が保護者ほど高くなかったのは、実際に勤務する中で、大人数の児童生徒が活動する際に施設の規模や数が不足する場面に度々直面しているためであることが自由記述の内容から推察できる。

メリットに関する自由記述には、「前期児童が後期生徒の生活や動きを日常的に目にできることにより、自然と成長の構えができる」といった、中1ギャップに限定されない前期後期のスムーズな引き継ぎについて書かれたもの、「新しい校舎やきれいなトイレ」について書かれたもの等が見られた。

デメリットに関する自由記述については3割の回答者が記述していたが、内容としては「プール、体育館、校庭といった1つしかない施設を前期課程と後期課程の両方で使うことによる不便さ、利用日の調整等の負担」等が多く書かれていた。また、「学区が広範囲のため家庭環境の把握が困難であること」、「スクールバスによる時間の縛りから活動に制限が加わること」も課題としてあげられていた。さらに、「調整や会議の必要性から通常の小中学校より教職員の負担が増えること」を指摘する意見も見られ、「職員定数のままの配置では仕事量に職員数が追いついていないこと」が負担感の大きさに影響していることがうかがわれた。

義務教育学校によるメリット 教職員アンケート集計表

質問項目 回答	(1) 児童生徒について										(2) 職員体制について					(3) その他	
	① 活気 学校 全体の	② つながり 学年 縦上下	③ 同学年 年間	④ 思いやり	⑤ 解消 中一 ギャップ	⑥ 改善 不登校	⑦ 問題 消解 行動	⑧ 多様な 考え方	⑨ 学力 向上	⑩ 体力 向上	① 相互 理解	② 一部 教科 担任	③ 乗入れ 指導	④ 組織的 な動き	⑤ 児童 生徒の 情報共有	① 環境 施設	② 地域 支援
A回答++	17	12	11	13	14	0	2	13	2	1	13	6	12	9	21	13	8
B回答+	29	39	38	37	29	16	16	31	14	14	40	33	28	32	32	27	35
C回答-	6	3	5	5	5	23	19	8	18	19	4	4	4	11	3	11	8
D回答--	1	1	2	1	0	7	10	0	4	4	1	1	1	0	1	3	0
E回答?	7	5	4	4	12	14	13	8	22	22	2	16	15	8	3	6	9
A～E合計	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
プラス評価 割合(含E)	77%	85%	82%	83%	72%	27%	30%	73%	27%	25%	88%	65%	67%	68%	88%	67%	72%
A～D合計	53	55	56	56	48	46	47	52	38	38	58	44	45	52	57	54	51
プラス評価 割合	87%	93%	88%	89%	90%	35%	38%	85%	42%	39%	91%	89%	89%	79%	93%	74%	84%

E「判断できない」を
抜いた集計

(各質問項目において「義務教育学校によるメリットが感じられるか」について)

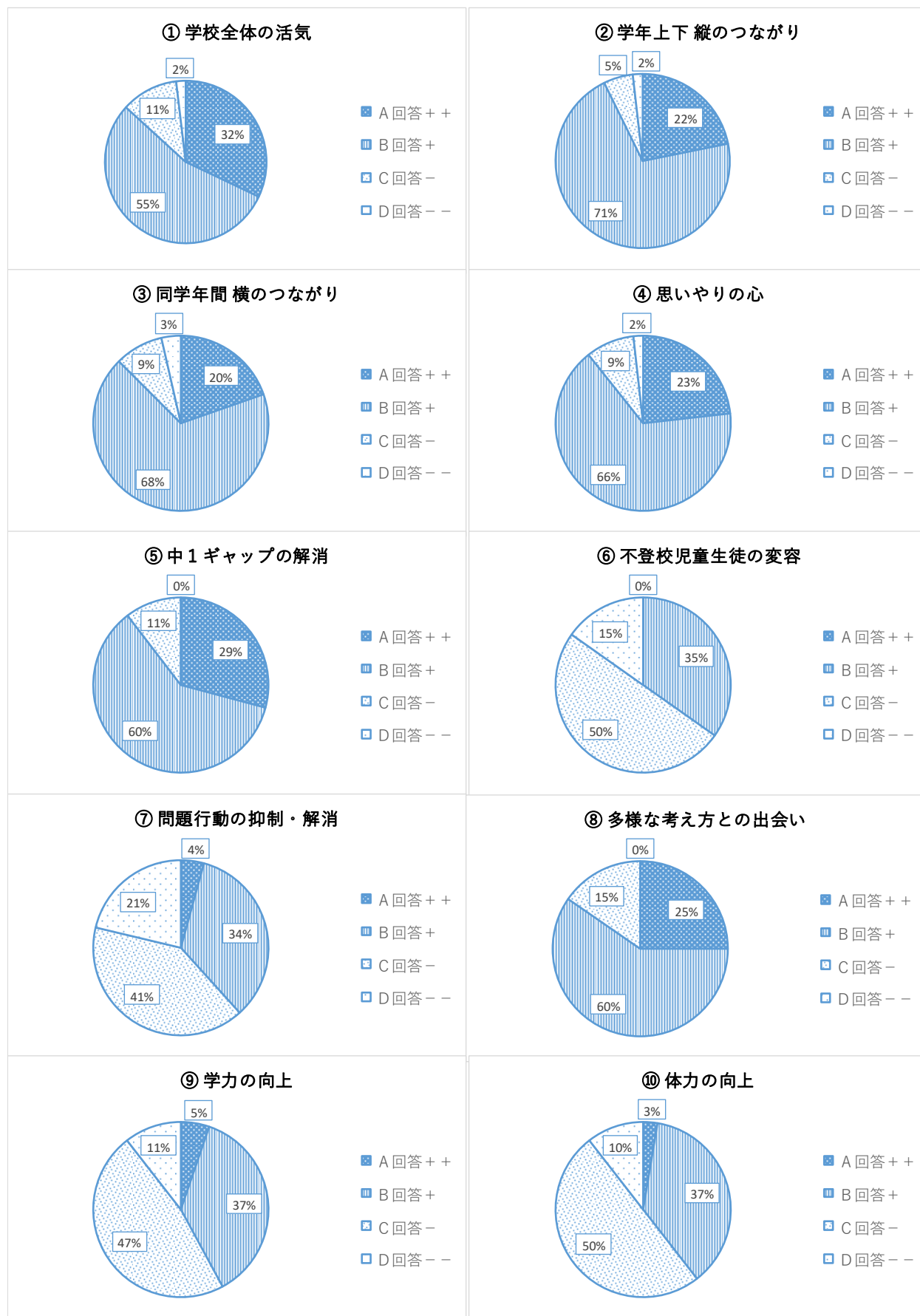
- | | | | |
|-------|-------------------|---|--------|
| A回答++ | ：「とてもそう感じる」 | } | プラス評価 |
| B回答+ | ：「どちらかと言うとそう感じる」 | | |
| C回答- | ：「どちらかと言うとそう感じない」 | } | マイナス評価 |
| D回答-- | ：「全くそう感じない」 | | |
| E回答? | ：「判断できない」 | | |

※「プラス評価割合」：A回答・B回答を合わせた数が回答数に占める割合

アンケート集計【教職員対象】

※職種により判断が難しい項目も多いため「E：判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

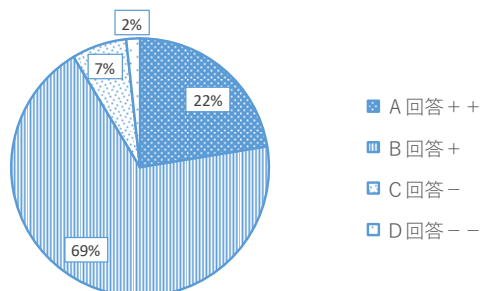
義務教育学校によるメリット (1) 児童生徒について



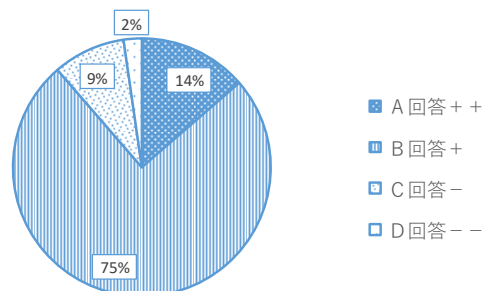
※職種により判断が難しい項目も多いため「E：判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

義務教育学校によるメリット (2) 職員体制について

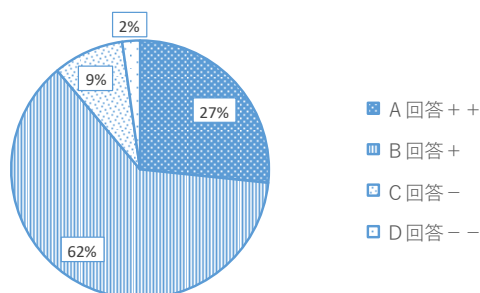
① 小中教員の相互理解



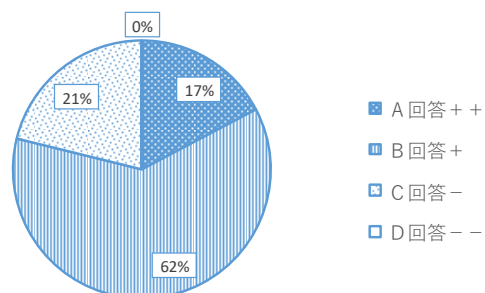
② 一部教科担任制による効果



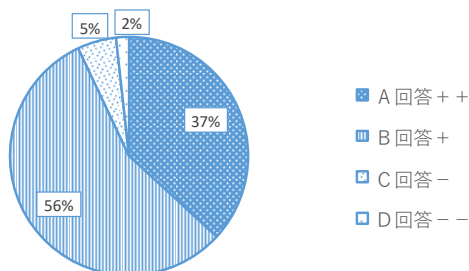
③ 乗り入れ指導による効果



④ 組織的な勤務体制

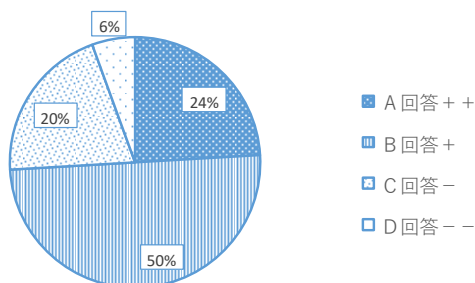


⑤ 児童生徒に関する情報共有



義務教育学校によるメリット (3) その他

① 充実した施設設備環境



② CSによる地域からの支援の充実

